

シンジェンタ ジャパン

シロアリ駆除剤事業に新規参入

木部と土壌処理用 世界に先駆け発売

ファイブ／スペシヤリティ

シンジェンタ ジャパンがシロアリ駆除剤事業に新規参入した。シンジエンタグループが世界市場で開発を進めているシロアリ駆除剤「オプティガード」(商品名)を他の市場に先駆けて日本で今年四月から販売開始したもので、有効成分は人畜や水生生物に対する毒性が低く、製剤面でもシツクハウスの原因と考えられる物質は一切使わず、施工時や施工後の異臭もないといった特徴がある。シロアリ駆除剤の製剤会社を通じて土壌処理用と木部処理用の二種類を発売しており、今後も製剤、処理方法、新規有効成分などで開発を進めて品揃えを拡充し、オプティガード関連製品で五年後に市場シェアの一五%獲得をめざす。

関連製品 シェア15%めざす 合わせ

土壌処理用の「オプティガードLT」(商品名)は、農業の殺虫剤としても実用化されているシンジェンタのネオニコチノイド系化合物「チアメトキサム」(一般名)を有効成分とする防蟻剤。普通物で魚毒性はA類相当と人畜や水生生物への安全性が高い。チアメトキサムの使用濃度は〇・一%と低濃度で効果を示す。シロアリの薬剤に対する接触毒と食毒のいずれも殺虫効果を発揮し、速効性と残効性に優れている。製剤を水和性顆粒剤にしたことで、水に希釈するときの粉立ちや飛散の心配をなくした。施工中の異臭もなく、残臭もない。懸垂率が良いので、施工終了まで再かく拌する必要がない。

一方、木部処理用の「オプティガード20E C」(商品名)は、チアメトキサムのほかに、防カビ剤「チアベンダゾール」(一般名)と防腐剤「シプロコナゾール」(同)を配合した三種混合剤。防カビ剤と防腐剤を配合したことで、木部を腐敗させることで問題となっていた腐朽菌などから家屋を守ることができ、製剤は乳剤。低臭性で、施工中の異臭発生や残臭の心配はない。短時間でかく拌でき、施工終了まで再かく拌の必要がない。

いずれの製品も一回の処理で五年以上の効果が得られる。日本しるあり対策協会と日本木材保存協会の認定も得ている。販売は、シロアリ駆除剤の製剤会社五社を通じておこなっている。消費者や施工業者向けに同社のホームページ(www.s-yngenta.co.jp/mokuzai)に製品のコーナーを設けて紹介している。なお、シンジェンタグループは、主要マーケットである米国はもとより、欧州やオーストラリアといった世界市場でオプティガードの販売に向けた開発を進めている。